

# DHL グローバル フォワーディング ジャパン 株式会社様

## グローバル物流の強さときめ細かいサービスとの「融合」を「SimGate」によるNACCSとのEDI接続で一段と強化

世界最大規模の総合ロジスティクス・プロバイダであるDHLグループ。日本法人のDHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社(以下、DGF)では、大型貨物を中心とした航空・海上の国際物流を担っている。同社の強みは、強力なグローバル・ネットワークと、日本企業のさまざまな要求にきめ細かく対応してきたサービス・ノウハウである。2008年4月には、NACCSとのEDI接続も果たして、さらに高度化する日本市場の要求へ、迅速かつ的確に対応できる体制を強化した。NACCSとのEDI接続には、NTTデータのゲートウェイソフト「SimGate」を採用して、DGFが全世界で利用するグローバルシステムとの連携も実現したのである。

**DHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社**  
 本 社 立：東京都墨田区堤通1-19-9 リバーサイド隅田12階  
 立：1969年(2006年 エクセル・ジャパンのフォワーディング部門との合併により現社名へ変更)  
 資 本 金：2億5,000万円  
 従 業 員 数：500名  
 事 業 概 要：世界最大規模の総合物流企業グループであるDHLは現在ドイツポストワールドネット(DPWN)の傘下。DPWNグループ全体の2007年度の売上は630億ユーロ。日本のDHL グローバル フォワーディング ジャパンは、DHLグループの海外ネットワークのもとで、海上・航空輸送、複合輸送、輸出入通関、プロジェクト貨物輸送を展開。  
 U R L：http://www.dhl.co.jp/

### 自社システムとNACCSへの二重入力をなくしたい

全世界220以上の国・地域を結び、年間に運ぶ積荷は15億個以上。DHLは、世界最大規模のロジスティクス・プロバイダである。

日本では、航空・海上貨物輸送のDGF、国際エクスプレス輸送のディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社、トータルサプライチェーンのDHLサプライチェーン株式会社、国際メール便のディー・エイチ・エル・グローバルメール・ジャパン株式会社の4社で日本におけるDHLグループを形成している。

日本におけるDHLグループ4社の中で、企業間の大型貨物輸送の担い手がDGFである。同社は、1815年にフランスで発祥した輸送会社ダンザス社の歴史を継承している。ダンザス社は、1969年に駐日事務所、1987年に日本法人ダンザス株式会社を設立しており、日本での活動には40年近くの積み重ねがある。

「DGFは、世界最強レベルの海外ネット



DHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社  
 パフォーマンスマネジメント部 シニアマネージャー  
 水本 由美氏



DGF成田カーゴセンター

ワークを駆使したグローバル物流を、日本人が求める『かゆいところに手の届くようなきめ細かいサービス』を通じて提供しているのです」と、DHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社 パフォーマンスマネジメント部 シニアマネージャーの水本 由美氏は語る。

DGFが、さらにきめ細かい顧客サービスを、業務効率を高めながら提供していくうえで課題となっていたのが、NACCS接続である。

DGFは、ワールドワイドで同一のグローバルシステムを使っており、各国独自のローカルシステムはできるだけ作らないポリシーによって、世界共通の高品質で一貫したサービスを裏打ちしてきた。このため、日本国内では標準であるが、グローバルで見るとローカルなしくみであるNACCSとのシステム連携は行っていなかった。したがって、DGFの国内拠点では、グローバルシステムへ入力したものと同じデータを、再度、NACCSへ入力する作業を行わなければならない。二重入力という作業負荷があるのと同時に、入力ミスのリスクも二重に発生するという課題を抱えていたのである。

### EDI接続により「一度の入力、2つのシステムへの自動送信」を実現

近年、企業はグローバルサプライチェーンの「見える化」とリアルタイムなマネジメントに力を注いでおり、ロジスティクス・プロバイダに対しても「情報の速さと正確さ」を強く求めるようになっている。「入力ミスが発生するリスクが2倍になる二重入力」はなくすべきであり、顧客の要求への確に答えていくために、2007年、DGFは、日本ローカルなしくみとしてNACCSとのEDI接続を決断したのである。

2008年4月、NACCS接続のEDIシステムが稼働を開始した。

構築したEDIシステムは、関連業務を含めて「ASNACシステム」と呼ばれている。現在では、日本国内5拠点で約150人の社員が、グローバルシステムへの一回の入力で、NACCS入力を完了できるようになった。

「まだ様々な業務上の理由によって、二重入力が残っています。しかし特に、輸入混載情報の照会・登録をはじめとする混載貨物関連の業務の中核で、『一度の入力と2つのシステムへの送信の自動化』を達成できました。これらの業務では、省力化とデータクオリティの維持に大きな成果があがっています」と、DHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社 パフォーマンスマネジメント部の中里 洋起氏は語る。

DGFは、月平均に5000件前後の混載を扱っている。少なく見積もって、その半数が「一度入力、送信自動化」へ移行したとすると、1ヵ月の入力作業だけの省力効果は41～80時間に相当するという。バックヤード業務の効率化と、日本企業のニーズへのきめ細

かい対応に向けて大きく前進したといえることができる。

## 日本ローカルシステムを肥大化させることなくNACCS接続を実現

ASNACシステム構築のパートナーとしてNTTデータを選んだのは、その技術力を評価したことに加えて、NACCSゲートウェイソフト「SimGate」を持っているからである。

「NTTデータは、NACCSそのものの開発を担当したシステムインテグレータですから、NACCSのことを深く知っています。また今回は、NACCSへのEDI接続だけでなく、NACCSデータも利用するクロスドック関連の別システムも、再構築の対象となっていました。この両方について業務知識もシステムノウハウもあって、ワンストップでインテグレーションを依頼できたのが、NTTデータだったのです」と、水本氏は評価する。

またSimGateは、企業システムとNACCSとの接続に必要な機能をワンパッケージに効率よくまとめたソリューションである。機能がシンプルに整理されているため、「日本ローカルのシステムを重いものにしたくない」というグローバル企業ならではの要求に合致したEDI接続を実現することができた。しかも、SimGateの前身のゲートウェイシステムは、グループ会社のディー・エイチ・エル・ジャパンで以前から安定稼働しており、信頼感もあった。

DGFは、クロスドック業務などを処理する

ASNACサーバー（アプリケーションサーバー）を構築し、DGFのグローバルシステムに入力したデータをSimGateサーバー経由でNACCSへ送信するしくみを構築した。

今回のプロジェクトでは、NTTデータは、NTTデータカスタマサービスと連携し、両社一体となってASNACシステム全体の開発を行った。SimGate関連では、グローバルシステムからデータを抽出して手作業でNACCSへ送るしくみ、NACCSからエラーデータが戻ったときに修正入力するしくみ、SimGateサーバーへ直接送信データを手入力するしくみ、SimGateサーバー経由でASNACサーバーに蓄積されるNACCS関連データを他の後処理業務で再利用できるように整理・抽出するしくみなども開発した。

「不特定多数が使うことを前提にしたNACCSと、DHL独自のノウハウを長年にわたって積み上げてきた自社システムを接続するのは、大変に困難なことでした。セミオートのしくみや例外処理の流れも作っておかなければなりませんでした。NTTデータカスタマサービスは、柔軟に対応してくれました」と水本氏は評価する。

## SimGateの周辺開発でグローバルシステムとも柔軟に連携

開発にあたっては、DHLグループ内部でのコンセンサスを得ることも苦勞した。DHLグループにおいて、アジア地域の本部はシン

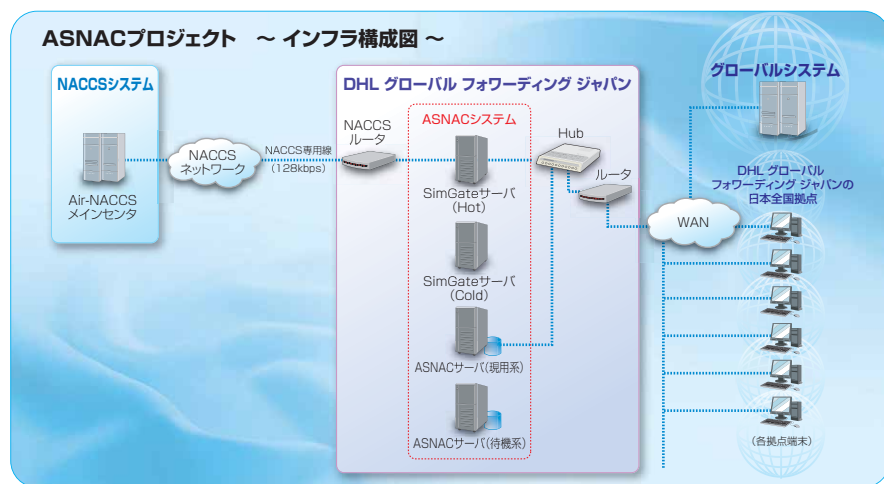
ガポールにあり、DGFは、シンガポールの本部の承認を得たうえで、開発側と交渉して、日本に関するデータだけを抽出して送信するしくみを開発してもらった。

NACCSで扱うコードは数字だけで10桁以上であるのに対して、DHLのグローバルシステムはアルファベットと数字混じりの7桁であるため、一度の入力でこの両者に対して自動送信するしくみを作るには、さまざまな面での調整が必要だった。また、グローバルと日本ローカルの業界常識の違いも、いろいろな局面で乗り越えなければならなかったが、DHLグローバル フォワーディング ジャパンは果敢にこれらの課題を乗り越えていった。

「もともと輸出入の業務処理は専門性が高く、しかも、入力データに間違いがあってはならない重要な作業です。NTTデータは、稼働開始から半年以上を経た現在でも、ユーザー向け説明会を開いてくれるなど、きめ細かいサポートを継続して提供してくれて助かっています」と中里氏はこやかに語る。



DHL グローバル フォワーディング ジャパン株式会社  
パフォーマンスマネジメント部  
中里 洋起氏



### DGFのNACCSへのEDI接続システムの概要

クロスドック業務などを処理するASNACサーバー（アプリケーションサーバー）を構築し、DGFのグローバルシステムに入力したデータをSimGateサーバー経由でNACCSへ送信するしくみを構築。NACCSという日本ローカルなしくみと、DGF独自のグローバルシステムとの接続を実現した。

※NACCS: Nippon Automated Cargo Clearance System

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社が運営する輸出入・港湾関連情報処理システム。国際物流において、税関、関係行政機関、関連民間業界（運輸業者、通関業者、倉庫業者、航空会社、船舶代理店、金融機関等）をオンラインで相互に結び、関税納付をはじめとする輸出入関連業務を迅速に処理するためのシステム。

今後は、「一度入力、自動送信」の領域を拡大して、業務の省力化・効率化にEDIシステムをさらに活かしていく。また、ASNACサーバーに蓄積されるデータを活用して、顧客サービスをさらに向上させたいと考えている。

「グローバルシステムの基礎データと、NACCSの実データが、1つのデータベースに蓄積されるようになった意義は大きい。現在顧客ごとに提出しているレポートを、日本独自に加工して日本語で提供するなど、新しい顧客サービスも検討していきたい」と水本氏は意欲的に語る。

NACCSという日本ローカルなしくみと、グローバルシステムとの連携を実現したことで、DGFは、さらに「日本企業のかゆいところに手の届くサービス」を強化していく道が開けたのである。

## 株式会社 NTTデータ

SimGate販売担当  
TEL.050-5546-8166  
E-mail: info@simgate.nttdata.co.jp  
http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/ (お客様事例)

## NTTデータ カスタマサービス株式会社

ソリューション事業部 ソリューション営業担当  
TEL.03-3534-8934